

平成30年度教育研究活動報告書

氏名	藤本真理子	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	博士(文学)	職位	准教授
専門分野	日本語学(古典)		

I 教育活動	
本年度担当科目	
	授業科目
学部	日本語史、日本語学基礎演習、古典語学専門演習、卒業論文(構想・準備)(制作)、日本語学講義1(古典語)、日本語学講義3(古典語)
大学院	日本語学特論
II 研究活動	
現在の研究テーマ(3つまで)	
(1) 指示詞	
(2) 文法	
(3) 丁寧語	
本年度を含む過去3年間の研究業績 H30・H29・H28(件数は追加可)	
H30	<p><論文> 「中古の力(ア)系列とソ観念指示用法—古典語における知識の切り替わりから—」『バリエーションの中の日本語史』(編者 岡崎友子・衣畑智秀・藤本真理子・森勇太)、単著、平成30年4月、くろしお出版、pp.103-118、査読無</p> <p><論文> 「指示副詞の形式と意味—古典語・甌島方言を通して—」(『鹿児島県甌島方言からみる文法の諸相』(編者 窪園晴夫、木部暢子、高木千恵)、単著、平成30年2月、くろしお出版、pp.229-248、査読無</p> <p><発表> 「古典語・現代の文脈指示と文体」(日本語文法研究のフロンティア—文法史研究・通時的対照研究を中心に—) 国立国語研究所プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」平成30年1月13日、NINJALシンポジウム、招待</p>
H29	<p><著書> 『ココが面白い!日本語学』(編者 岡崎友子・堤良一・松丸真大・岩田美穂)、執筆担当、ココ出版、平成29年4月</p> <p><論文> 「現実世界の対象を表さないソの指示—歴史的変遷をとおして—」『語用論フォーラム2』、ひつじ書房、平成29年12月、査読無</p> <p><論文> 「日本語指示詞の複合形式にみられる問題」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第17号、尾道市立大学、平成30年3月、査読無</p> <p><発表> 「高等学校生徒による方言教材作成—〈篠山弁〉を事例として—」(ブース発表 方言に関する教育活動) 日本方言研究会、平成29年5月、共同発表、査読有</p>
H28	<p><論文> 「〈聞き手領域〉に関わるア系列の指示—中世を中心に—」『日本語文法史研究』3、ひつじ書房、平成28年12月</p> <p><発表> 「古典語におけるソ系とア系の切り替わり—中古—」バリエーションの日本語史[シンポジウム1]「日本語指示詞における地理的・歴史的変異の研究」、平成28年4月</p>
H27以前の主な研究業績(件数は追加可)	
(1) <著書> 『〈役割語〉小辞典』(編者 金水敏)、執筆分担担当、研究社、平成26年9月	
(2) <著書> 『グループワークで日本語表現力アップ』、共著(野田春美・岡村裕美・米田真理子・辻野あらと・藤本真理子・稲葉小由紀)、ひつじ書房、平成28年3月	
(3) <論文> 「そこはどこ—指示について—」『尾道市立大学日本文学論叢』第11号、尾道市立大学日本文学会、平成27年12月	
(4) <論文> 「もの言う動物—キャラクターとしての動物のイメージ—」共著 平成26年12月、『語文』第103輯、大阪大学国語国文学会、〈共同研究者〉岩田美穂・藤本真理子、pp.43-54、査読有	
(5) <発表> 「ソ系列指示詞と不定語との関連—中古・中世を中心に—」日本言語学会、名古屋大学、平成27年11月、査読有	
学会、所属団体における活動(本年度を含む過去3年間の研究業績) H28・H29・H30	
所属学会・所属団体 役職等と任期	
日本語学会(庶務委員:平成24年5月~平成25年4月)	
日本言語学会(広報委員:平成30年4月~現在に至る)	
日本語文法学会	
関西言語学会	
土曜ことばの会(事務局員:平成24年3月~現在に至る)	
IV 社会活動	
1. 学外活動(本年度1年間の活動状況)(件数は追加可)	

平成30年度教育研究活動報告書

氏名	藤本真理子	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	博士(文学)	職位	准教授
専門分野	日本語学(古典)		
(1) 第8回尾道マンガ大賞展の審査			
講演会	1回		
出前授業	1回		
(公開講座・後援会・出前授業に関するもの、その他特記事項があれば記入) ● 講演会「人に問いかける表現—『放浪記』から—」(平成30年6月17日、三成地区の歴史と備後地方の自然探訪教室) ● 出前授業「『源氏物語』から音が聞こえる」(平成30年7月5日、賀茂高等学校)			